

第2回摂津市公民館運営審議会要点録

日時 平成31年2月19日（火）午前10時30分から

場所 摂津市役所本館 301会議室

出席委員 11名

欠席委員 2名

事務局 9名

案件①摂津市立全公民館講座開催事業（案）について説明

（質疑応答）

（委員長） 幼児・児童に関するもので、子育て家庭の母親が参加する時、託児付きの講座はどれに当たるのか。全館で何回できる予算があるのか。

予算を振り分けているのか、回数で分けているのか。

（事務局） 保育付き講座は各館2～3講座を企画している。参加されても、預けられる方がいない場合もある。若い方にも参加してもらいやすい講座には、一時保育をつけることで参加しやすいと考える。

（委員長） 申し出がなかった場合、予定していなかった他の講座にまわすことはできるのか。

（事務局） 他の講座の一時保育を付けることはできる。

予算の上限はあるが、必要であればやりくりして実施していく。最初に予定している回数を出している。

（委員長） 子どもと離れると不安という方も、同じ建物内で少し離れたところにいるという安心感がある。

（委員） 他市の講座でベビーカーを調理室に一緒に入り受けたことがあった。不思議なことに子どもが騒がなかった。制限はあると思うが、検討していただければと思う。

（事務局） 火を扱うのでその点が心配である。

（委員） その時は、各テーブル5～6人がメンバーで、子どもは一人が限定。そのメンバーと一緒に子どもを見ていた。工夫はできなくはないと思う。

（委員） 食べるものを扱う場所で、衛生問題がある。安全と衛生のバランスをとる必要がある。

（委員） 一年間の講座で、男性と女性の参加割合はどのくらいか。

（事務局） 9割が女性。

- (委員) 男性目線での講座を増やしてもらえればと思う。
- (委員) 次年度の講座のテーマはあるのか。
- (事務局) 市の予算のテーマに合わせたもので企画を考えている。
- (委員長) 団塊世代が後期高齢者に達する 2025 年問題に関する講座があればと思う。
- (委員) 災害がテーマの講座があるが、災害時は男性の力がどうしても必要になる。防災とリンクさせて男性に来てほしいと思わせる。
- (委員長) 広報で男性の目を引く工夫が必要。
- (事務局) 男性が目を引くテーマがあるが、硬めのもので意識をしている。
- (委員) 食育は大人になるまでの過程が大事。今の若い人は、インスタント製品に慣れてしまっている。昭和の時代の食生活に戻っていけば、栄養面など解決していくのではないかと考える。全館では無理でも、事業案の中で食域のテーマを盛り込んでもらえたらと思う。
- (委員) 一過性でなく、数年続けてやっていくテーマだと思う。
- (委員) 他課と連携して一回で終わらせないことも必要。
- (委員) オカリナづくりとオカリナコンサートの講座を予定しているが、時期を近づけて実施してみてもどうか。
- (事務局) 講師のスケジュールもあるので、今後、企画する上でコラボレーション的なことは検討していく。
今回のオカリナづくりの内容は介護予防が目的。コンサートは講師が別の方に依頼している。
- (委員) クラブ化にしていくことはあるのか。
- (事務局) 今まで演奏したことがなかった人が、これから始められる楽器は何かということでオカリナにたどりついた。介護予防となると、幅広い方が対象になる。高齢の方は手作りをしたということで大切にされる。
- (委員) これからの講座がどうあるべきかという意見を皆さんに出してもらえればよい。企画面で困ることがあれば審議してもらってもできる。

案件②キッズなかよし発表会について説明

(質疑応答)

- (委員) 文化ホールになったので舞台の演出がよく、中身がよく見えた。
- (委員長) 予算的には昨年より上回ったのか。
- (事務局) 音響・照明のための人件費がかかっているが、次年度も予算の確保を予定している。

- (委員) 開催日が3月中旬から2月になったが、寒い時期だった。
- (事務局) 次回は気候の良い時期にしたいと思っている。
- (委員) 参加団体の順位や賞は設けることはできるのか。
- (事務局) ダンスが多いが、全く異なる演目があるので審査するのは難しい。
- (委員) アンケートをとるといのは。
- (事務局) 最初から最後まで演技を観てアンケートを書いてもらえれば公正なものになるが、自分の子どもが出るところだけ観て帰る状態。あくまで発表の場を提供する程度で、楽しくやっていただければよい。

案件③その他

(質疑応答)

- (委員長) 超高齢化社会における講座の方向性はあるのか。
- (事務局) 大人向けとして、次年度の合同講座で、各クラブから出演してもらったものを考えている。子どもと高齢者のバランスを取りながら企画していく。
- (委員長) 市の高齢者担当課と連携を取って、良い企画ができればと思う。
- (委員) 公民館まつりについて、実行委員会と公民館の共催だと思う。開催期間についてアンケートを取られたが、一方通行で全体としての総意はどうか。例えば、食中毒の問題が出れば実行委員会がすべて責任を取れない。行政のバックアップがないと対応できない。まつりは公民館・地域を上げて楽しく発表することが主旨。人手不足なら、どうしたら中味を変えて続けていくかを考える。
- (委員) アンケートをとることは大切であるが、前提として、何の問題があり皆がなぜそうするのかを知っていないと個人の意見になる。
- (委員長) 公民館運営審議会のメンバーについて、障がい者関係のメンバーがない。障がい者の方が公民館についてどのように思われているのか、ご意見を聞きたい。
- (委員) 男性へのアピールですが、広報は見ない人が多い。例えば、どのように役に立つのかを書く。しかし、たくさん文章があると読まない。ピックアップコンテンツのような形が伝わりやすいかも知れない。また、コンビニのイートインでコーヒーを飲みながら、置いてあるチラシを見ている人が多い。難しいかもしれないが、公的機関の場所以外でチラシを置くと見てくれるかも知れない。チラシを置くだけでなく、上半期分をピックアップして一覧を作るようなことも考えられる。